



Kringle
Pharma

平成 20 年 4 月 2 日

各 位

当社の研究開発テーマが（独）医薬基盤研究所の
「医薬品・医療機器実用化研究支援事業（委託事業）」に
採択されました。

クリングルファーマ株式会社（本社：大阪府豊中市、代表取締役社長：岩谷邦夫、以下「クリングルファーマ」）は、肝細胞増殖因子（Hepatocyte Growth Factor: HGF）の組換え蛋白質の研究開発を行っております。この度、組換え HGF 蛋白質を難治性神経疾患（筋萎縮性側索硬化症および脊髄損傷）に対する治療薬として開発する新たなプロジェクトが、独立行政法人医薬基盤研究所（所在地：大阪府茨木市）の「医薬品・医療機器実用化研究支援事業（委託事業）」平成 19 年度二次募集分に採択されました。本委託事業は平成 21 年度まで継続し、初年度の配分予定額は 8 千万円です。

HGF は、成熟肝細胞に対する増殖促進因子として当社科学アドバイザーである中村敏一教授（大阪大学）によって、世界に先駆けて発見・単離・クローニングされました。HGF は様々な組織に対して内因性の再生因子として働いており、運動神経に対しても再生促進作用や保護作用を発揮します。筋萎縮性側索硬化症と脊髄損傷は、どちらも運動神経の障害を特徴とする難治性神経疾患です。両疾患のモデル動物を使った実験において、組換え HGF 蛋白質の投与により病態の進行抑制・延命・運動機能の改善など顕著な治療効果が認められました。これらの結果から、組換え HGF 蛋白質は筋萎縮性側索硬化症や脊髄損傷などの難治性神経疾患に対する画期的な治療薬になることが期待されます。当社は、すでに組換え HGF 蛋白質の GMP 準拠での製造法を確立しており（平成 19 年 6 月 12 日付当社プレスリリース参照）、今回の委託事業により、前臨床試験と治験薬製造を行い臨床試験の早期実施を目指します。

クリングルファーマの代表取締役社長岩谷邦夫は、次のように述べています。「今回、当社の研究開発テーマが医薬基盤研究所の委託事業に採択されたことをとても喜ばしく思います。筋萎縮性側索硬化症と脊髄損傷は、有効な治療法の存在しない医療ニーズの大きな疾病であり、当社として組換え HGF 蛋白質の開発を行うことは大きな社会的意義があります。また、本プロジェクトは東北大学、慶應義塾大学、大阪大学の基礎研究の成果に基づくもので、日本のアカデミア発の成果から臨床応用への橋渡しを促進する意義もあります。」



Kringle
Pharma

クリングルファーマについて：

クリングルファーマは、大阪大学発創薬バイオベンチャーとして2001年12月に設立されました。大阪大学大学院医学系研究科の中村敏一教授が発見したHGFおよびNK4の医薬品開発を通じ、新規のバイオ医薬品の開発に注力しています。現在、スウェーデンにおいて慢性の下肢皮膚潰瘍を対象に、また米国において急性腎不全を対象に組換えHGF蛋白質の医薬品開発を行っています（平成20年1月22日付、平成19年3月28日付当社プレスリリース参照）。一方、新規制癌剤として組換えNK4蛋白質とNK4遺伝子治療薬の医薬品開発を進めています。より詳細な情報は、弊社ウェブサイトをご覧ください。（www.kringle-pharma.com）

医薬基盤研究所の「医薬品・医療機器実用化研究支援事業（委託事業）」について：

本事業は、保健医療の向上に資する画期的な医薬品・医療機器の開発を促進することを目的として、民間における実用化段階の研究開発に公的な資金を委託方式（いわゆるバイ・ドール方式）で提供するために平成16年度より開始されたものです。平成19年度二次募集には13件の応募があり、外部の専門家からなる実用化研究評価委員会において書面評価及び面接評価が実施され、最終的に当社の研究テーマを含めて2件が採択されました。より詳細な情報は、独立行政法人医薬基盤研究所ウェブサイトをご覧ください。（http://www.nibio.go.jp/shinko/H19saitaku2ji_theme.htm）

問合せ先：

安達 喜一

クリングルファーマ株式会社

取締役副社長

電話 06-6831-3330、電子メール info@kringle-pharma.com